

『飽食時代のおやつを考える』

座長 松本 晋一

小児の齲蝕罹患傾向に、近年減少傾向が見られる中、一才半、三才児の低年齢児の罹患状況は、ほぼ横ばいか、むしろ悪化の傾向にあると言われています。その要因のひとつとして、現代のいつでも、どこでも、なんでも、好きなだけ食べられるという“飽食の状況”が子どもたちのおやつの在り方にマイナスの影響を与えているものと思われます。そんな中で、今回の地方会開催地である当熊本県では、毎年「強い子よい歯のおやつコンクール」が実施され、子どもたちの健康増進に寄与しています。このような背景を踏まえて、今回「飽食時代のおやつを考える」と題して、低年齢児にかかわりの深い、各分野のシンポジストにお集まりいただき、現代の社会状況にかなう「基本的な間食の位置づけ」をご討議いただき、この中から「歯科保健指導の現場に生かせる、おやつの基準づくり」のたたき台ができればと考えます。さらには、次の世紀を担う子どもたちの“これからのおやつの在り方、ゆくえ”を探って頂ければ幸いです。